

第 4 期 会長就任挨拶

会長 中山 良一 (1973年卒)



平成 6 年 5 月 14 日(土)の第 4 回通機会総会において、会長に選任頂きました。会長に就任するにあたりご挨拶申し上げます。

機械工学科を卒業して、早くも 20 年が過ぎ、社会人としての成人を迎えようとしているところです。その間、大学では学科名称は機械制御工学科と改められ、

機械・機構と制御を融合したメカトロニクス分野の先端として、他学に例を見ない専門分野教育を実践しています。そして、既に幾多の優秀な卒業生を社会へ送りだしています。

本通機会の会員も既に 2,000 名を越え、『通機会だより』の発行部数も 3,000 部に至っています。通機会が、この様な大所帯へと発展したのは、この 20 年間以上にわたって会を支えて来て頂いた本学科の諸先生及び先輩の不断の努力があったからこそだと感謝申し上げます。

会の再発足以来初代、第 2 代、第 3 代の各会長は、機械工学科の発足当時に入學された方々が、務められてきました。この度、会長、副会長が約 10 才若返ることとなり、諸先輩方は若干の不安を覚えるのではないのでしょうか。しかし、我々も社会人として第 2 の成人式を済ます年齢となり、世間でも中堅と呼ばれて、上下からサンドイッチになりながら、種々の仕事、企画を実践して来ました。最近、『課長さんの厄年』と題する TV ドラマが放映され、人気を博しましたが、我々はまさにその世代に属しています。

第 3 期より引き続き順調に実施されている企画は、確実に実践し、更に新しい企画については実現するための課題を抽出し、その解決を幹事中心に図り、とにかく学生や O B の役に立つ各企画案を実践するよう努力致しますので、どうか若手主体の通機会運営に、厳しい助言と支援を頂く事をお願いします。

しかし、これらの企画や名簿の発行業務を、従来の

様に校内幹事の方々のボランティアに頼っている、自ずと限界を生じて来ます。そこで、定型的な業務、例えば新入会員や会員の住所変更等の名簿の入力、会費の請求等については積極的にアルバイト化を図り、各種企画の運営に幹事の勢力を注ぐ様に体質の改善を行います。このためには、本会の発足以来据えおかれていた終身会費の値上げを来年度の新入会員から実践します。つきましては、まだ会費未納の方は至急入会費を支払うことをお勧めします。また、会員の多くの皆様が、本年発行の最新名簿を是非購入頂く様お願いします。

さて世間では、平成景気も既に遠のき、先の見えな不況がここ数年覆ってきました。しかし、やっこの不況も夏の異常な猛暑のお陰で出口が見えようとしています。社会ではまだバブルの後始末のためリストラが叫ばれ、実践されています。

この様な時節に、通機会としては何をしたら良いのでしょうか。まさに今の社会において、必要とされているエンジニアとは、各種の現象を解明し、その原因を探求し、その解決策または撲滅策を立案して、実践できる人材です。

この様な優れた人材を育て上げるのが、大学ですと安易に言うてはならないと思います。しかし、その人材の芽を作り出すのは、やはり大学教育の使命だと信じています。今まで通機会も、このお手伝いを色々してきました。まず第一には、優秀な成績を修めた方への田中栄賞の贈呈、そして社会人の方々に講師に招いた特別講演も行って来ました。後者を通じて、学生の会員が社会ではどの様な人材を要求しているのかを直接的に聞く、良い機会を設けることができたと思っています。これらの企画を継続し、学生と社会人会員の交流を図ると共に、社会人会員間の交流の場も 4 年に一回の総会だけではなく、他の機会も利用することを考えていきます。例えばこの『通機会だより』に、本人及び同じ企業の同窓生の近況報告を載せたりすることでも交流はできるのではないのでしょうか。

また、電気通信大学には、全校組織の同窓会「目黒会」があり、現在当通機会との組織的な関係はありませんが、両者の関係を明確化することも検討課題と考えています。現在、同窓会組織は、どこも名簿管理や会報の出版などの運営に関して効率向上の必要に迫られています。通機会の会員のメリットを第一に、同窓

会として相互の協力が可能な部分から取組みます。

最後に、旧D、E棟の跡地に新M棟（地上8階建）の建設が現在進められています、来年7月には竣工の予定です。この竣工にあたり、通機会として微力ながら協力したいと考えています、是非会員の方々の多大な協力をお願いします。

通機会が、会員相互のより良いコミュニケーションの場を提供できるように努力しますので、今後とも皆様方の御協力よろしくお申し上げます。

新M棟落成記念事業に 対する寄付の協力 について

拝啓、通機会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度母校におきましては新しい機械制御工学科棟が建設されることになり、昨秋より旧D棟、E棟にまたがる場所に建設が始まっております。同封の趣旨説明文にもその概要が掲載されておりますように、工場（2F）と講義棟（3F）を併設した8F建て、総面積10000㎡を越えるなかなか立派な建物です。我々OBの会員にとりましても、学生時代を過ごしたなつかしいM棟やP棟に代わって、新しい学科棟が建設されることは新たな発展を感じさせる慶事であると存じます。

この機会に母校の機械制御工学科では明年7月の落成をめざして、あらたに新機械制御工学科棟落成記念事業会を発足させ、次のような事業（別紙参照）を企画しております。

1. 教育環境の充実や調度品の購入のための教官、卒業生、企業に対する募金と物品の寄贈のお願い
2. 落成祝賀会の実施

そこで通機会と致しましても今回の事業の趣旨に賛同し、全面的に協力していきたいと考えております。つきましては別紙にございます寄付金の面と同窓生として大きく協力し、母校の発展に少しでも貢献したいと存じます。

なお、参考までに学科内の教職員については、1口5,000円で次の寄付金額を目安にしているとのことです。

教授：6口以上、助教授・講師：4口以上
助手：2口以上、技官：1口以上

会員の皆様には以上の趣旨に御賛同いただき、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

平成6年10月

通機会幹事一同

代表 会長 中山 良一

第4回通機会総会の開催

副会長 石川 晴雄（1972年卒）

オリンピックと同じように4年ごとに開催される通機会総会（第4回）が「通機会OBと学生との交流と懇親」をテーマに去る5月14日（土）午後、母校で晴れやかに開催され、あらたな4年間（第4期）への出発をいたしました。出席者は53名のOBと約60名の現役学生でした。また田中栄先生（元学長）をはじめ、機械制御工学科の先生方にも出席をいただきました。4年に1回の開催ということもあり、OBにとっては久しぶりに大学のキャンパスを訪れ、また昔の仲間と旧交を暖める機会でもあり、そここに話の花が咲いていました。特に建設中の機械制御工学科の新しい研究棟の姿にも触れ、母校の発展の息吹に感慨も新たなことだったでしょう。また4年生を中心とする現役学生の参加者にとっては、大変な不況で厳しい就職状況の下で直接OBに会って話が聞けるチャンスとなったようです。当日は、通機会総会、パネルディスカッション、懇親会で、内容は次のようでした。

通機会総会

まず横内康人氏を議長に選出した後、これまでの4年間（平成2年4月～平成6年3月：第3期）の会長である下河利行氏より挨拶があり、3500名近い陣容となった通機会の現状に関する報告とより一層の協力の要請がありました。ついで、第3期事業報告として、幹事会が4回開催されたこと、田中栄賞の授与式が7回実施され、13名がその栄誉を讃えられたこと、通機会だよりの発行状況（学科創立30周年記念特集号、11～13号）、通機会名簿（第4版）が7月に発行されること、および通機会会員数が3497名（卒業生2538名、学部生、院生516名、教職員89名、旧教職員27名）になったことが報告されました。第3期の会計報告（別掲）とこれに関する監査報告があり、会計の使途、決算内容の妥当性について全員一致で承認いたしました。

次に終身会費に関する通機会会則の変更の提案がありました。会員数の急増に伴う通機会名簿の管理、発行費用と郵送費用および通機会だよりの郵送費用の増

加などにより、近い将来予測される財政面の逼迫に対処するため終身会費を5000円から10000円にする案が提案され、承認されました。

ついで役員の変更が行われ、次の方々が第4期(平成6年4月～平成10年3月)の役員として満場一致で選出されました。

会長 中山 良一氏(昭和48年卒)

副会長 門山 俣之氏(昭和47年卒)

石川 晴雄氏(昭和47年卒)

監査 川橋 正昭氏(昭和41年卒)

真田 潤氏(昭和54年卒)

役員の変更をうけ、新会長の中山良一氏より、次期4年間、会の発展に尽力したいとの挨拶がありました。

最後に第4期の予算案(別掲)が提案され、承認されました。

パネルディスカッション

通機会総会に引き続き、テーマ「社会または企業は電気通信大学機械制御工学科学生に何を求め、何を期待するか」についてパネルディスカッション(司会、梶谷誠氏)が行われました。まず、5名のパネリスト川橋正昭氏(埼玉大学)、吉川紘氏(アマダメトリックス)、荻泉誠氏(特許庁)、坂田芳幸氏(石川島播磨重工業)、飯田誠氏(日立製作所)より職業の選択、企業が期待するエンジニア像、就職の心構えなどについて基調報告がありました。ついで会場の参加者との質疑、意見交換が活発に行われ、有意義なディスカッション・ミーティングとなりました。

懇親会

パネルディスカッションのテーマをそのまま引継ぎ、またOBと在学生との親睦を図るために、会場を生協食堂に移して懇親会が行われました。下河利行氏の開会の挨拶の後、田中栄先生(現東京工芸大学学長)からご挨拶を頂きました。ついで機械制御工学科長の根岸秀明先生の音頭で乾杯を行い、なごやかな懇談に入りました。この間、前教官の皆川七郎先生(現新潟国際情報大学教授)をはじめとして、多数のOB、学生、留学生が次々に挨拶にたち、歓談の輪が広がっていきましました。



新任のご挨拶

「手当たり次第に研究」

機械制御工学科 教授 矢野 宏



計量研究所に長く勤務しておりましたので、一応、計測の専門家ということになっているようです。測定というのは測る作業で、それをいかに生かすかが計測だと割切っています。ところが、測定の研究は多いのですが、計測の研究は少ないということで、それを可能にするための媒介が品質

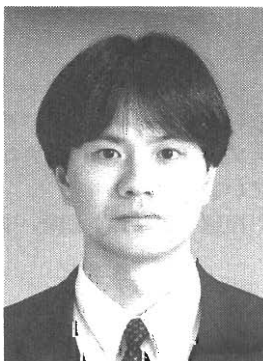
工学と考えた次第です。

品質工学は世界的にはクグチメソッドと呼ばれ、技術そのものを開発するための方法論といわれます。そんなことから、設計、生産技術など、ほかの分野にのめりこんで、3年前、宮城教育大学移った時は、もっぱら各種の加工技術の研究ばかりでした。とにかく、何を見ても面白く、最近では人間の感覚、化学、農業などにも関心があります。

電通大の方々と、精密工学会の研究活動などを通じて、前からからおつきあいがあり、ここの教室で研究会を開いたこともしばしばです。しばらくの間、よろしくお願いします。

新任のご挨拶

機械制御工学科 講師 明 愛国



平成6年4月、山梨大学より本学機械制御工学科に転任してまいりました。通機会の皆様へ本文をかりてご挨拶を申し上げます。現在、ロボット工学講座に属し、梶谷誠教授、金森哉史助手と一緒にメカトロニクスの研究と教育を担当しております。

1984年10月に中国の武漢にある華中理工大学から大学院留学生として来日してから、今年の10月でちょうど十年になります。いろいろなところにていせいでしょか、この十年間をとて

も短く感じます。私はこれまでにロボットの機構、制御と応用に関する研究を幅広く行って参りました。主な研究内容は二つに分けることができます。一つは、山梨大学牧野洋教授のところで行った球面SCARAロボットの開発及び応用研究です。このロボットは、世界でも有名なSCARAロボットを三次元空間へ発展させたロボットです。これに関する研究が私の修士課程のテーマとして始まってから今年で9年になりますが、これまでにその有用性、特に工芸品の加工における実用性が確認されています。もうひとつは、東京大学樋口俊郎教授のところで博士課程のテーマとして行ったワイヤパラレルメカニズムに関する研究です。理論解析と実験の両方からアプローチし、この機構の一般概念、設計と制御に関する見解は新しいもので、その後のこれに関する研究に多くのヒントを与えています。

こちらに赴任する前に山梨大学牧野洋教授のところで助手として3年間勤めました。大学におけるロボットの研究教育、特に大学院生、卒論生の指導に取り込んで参りました。またいろいろな会議に出席し、事務的な仕事をこなすとともに、日本の大学運営システムについて良く知るようになりました。3年間の研究教育の生活はとてもいい経験になり、これからの仕事にも役に立つと思います。

今後、ロボットやメカトロニクス機器用の機構、制御と応用に関する研究を行いたいと思っております。メカトロニクスの観点から、特にメカと制御の観点からアプローチすることを考えております。最近ロボットの機構として新しいものが出てこないと言われていますが、それは汎用ロボットを作ろうとする場合の話だと思います。これからは、個々のアプリケーションに適したロボットの機構と制御アルゴリズムの開発が重要となってきますし、実用化するために体系的な考え方が大事だと思っております。ロボットやメカトロニクス機器の個性を重視し、体系的な考え方を持って、研究を進めていきたいと思っております。

来日して10年とはいえ、いろいろな面でいまでもハンディが少なくありません。いつでもチャレンジ精神を忘れずハンディを乗り越えて、研究と教育に微力ながら力を尽くしたいと思っております。

通機会の皆様のご指導とご鞭撻をよろしく申し上げます。

Greeting from a New Staff

Associative Professor of
Department of Mechanical and Control Engineering
Sergei Victorovich Ulyanov



Brief Curriculum Vitae

He was born in Russia, December 15 1946, and in 1971 graduated from Moscow Technical University on the speciality "Electro-Mechanical and Automatic Control Systems". In 1974, he got Ph. D. from the Central Institute of Building Construction (Moscow) on the speciality "Dynamic of Building Construction on Earthquake Excitations". In 1992, he got state Dr. of Physics and Mathematics Sciences from Institute of Physico-Technical Problems (Moscow) on the speciality "Quantum and Relativistic Dynamic Control Systems".

His scientific interests are in AI control systems with variable structure for complex mechanical systems, wall climbing robots, fuzzy control, software and hardware of fuzzy controllers, intelligent mechatronics, biomedical engineering, quantum and relativistic control systems.

Academic Activities

He published 23 books and more than 120 papers in periodical journals and proceedings of conferences in the different scientific domains. As selection, examples of the books are "Introduction in Relativistic Theory and Its Applications to New Technology" (Moscow 1979); "Quantum and Relativistic Dynamical Control Systems" (Moscow 1982); "Statistical Analysis of Building Construction on Earthquake Excitations" (Moscow 1977); "Information-Semantical Problems in Control and Organization" (Moscow 1977); "Theory of Models in Control Systems" (Moscow 1978); "Fuzzy Controllers and Intelligent Control Systems" (Moscow 1990, 1991 and 1992).

From 1974 he has read lecture in Moscow University of Electronics, Automatic and Radiotechnic as a Professor.

Professor S.V. Ulyanov is manager of International AI Control Systems Laboratory by UNESCO in Pereslavl-Zallesky, Russia, and President of Russian

Association of Fuzzy Systems, scientific chief of world famous journal "Biomedical Engineering".

He developed a practical model of the wall climbing robot for decontamination of Chernobyle nuclear-power plant, for cleaning, painting, fire-fighting operation etc.; fuzzy controller for mobile robots and manipulators in the Institute for Problems in Mechanics, Russian Academy of Sciences.

In the earthquake engineering he developed new designing technology of building with variable structures. In mechatronics he contributed to the development of new electro-pneumatic proportional regulator on VLSI for intelligent controllers of the wall climbing robot and suspension of automobile. In biomedical engineering he invented a new apparatus for artificial lung ventilation on the basis of this electro-pneumatic regulator and got patents for it.

Together with SGS-THOMSON Company (Italy-French) he is developing new software and hardware of interfaces for fuzzy processor and fuzzy controller. The applications of this fuzzy controller are expected to intelligent mobile robot for service use which is developed in the Yamafuji Laboratory, the University of Electro-Communications and apparatus for artificial lung ventilation in the Biomedical Research Institute in Russia.

In this time professor S.V. Ulyanov is collaborating in AI fuzzy control system and intelligent mechatronics for mobile robots and a unicycle in the Yamafuji Laboratory, Department of Mechanical and Control Engineering. Finally, he would like to express his cordial thanks for giving him this precious opportunity to join such valuable research works and education in this University.

通機会第4期役員

(1994~1997)

会長 中山 良一 (73年)

副会長 門山 倣之 (72年)、石川 晴雄 (72年)

監査役 川橋 正昭 (66年)、真田 潤 (79年)

<学外幹事>

64年 大賀 寿郎

65年 下河 利行

66年 川橋 正昭、牟田 敏保

67年 新井 義男

68年 宮地隆太郎

70年 益田 正、清水 弘幸

71年 小林 信之

72年 門山 倣之、永井 利和

73年 中山 良一

74年 奥村 秀人

75年 中川 恒彦

77年 野口 裕昭

78年 新井 信夫、狩集 二郎

79年 真田 潤

81年 鶴岡 一郎、平田 教行

82年 菅谷 正弘、須原 利昌

83年 東木 達彦、柵山 紀夫

84年 渡辺 守、辻浦久寿雄

85年 佐藤 広志、大東 洋、三宅 基夫

87年 中野 禅、新 武志、高橋 千織

88年 渡辺 寛

89年 中村 保馬、植村 幸生

90年 浜下 直樹

91年 小今井 隆

92年 大串 浩司、井上 祐一

<学内幹事>

64年 梶谷 誠 (会計、特別講演会)

65年 灰塚 正次 (名簿)

横内 康人 (特別講演会)

71年 小泉 博義

72年 村田 真、石川 晴雄 (庶務)

74年 高松 徹 (通機会だより)

75年 根本 良三

78年 石井 明 (名簿)

87年 金森 哉吏 (会計)、松村 隆 (名簿)

89年 浅川 直紀 (通機会だより)

結城 宏信 (庶務)

※記載年は学部卒業年

~編集係より~

通機会だよりは通常年1回、3月ごろの発行を予定しています (ただし次号の発行は来年5月ごろを予定)。今後積極的に会員の皆様からのご意見を掲載したいと思いますので記事を募集します。内容は、後輩へのご意見、通機会へのご意見、ご自身の近況などどのようなものでも結構ですので、ぜひ下記まで原稿をお送り下さい。

編集発行 〒182 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

電気通信大学 機械制御工学科内

TEL : 0424-83-2161

FAX : 0424-84-3327

通機会だより担当 高松 (内線4753)